【参考資料3】1～3回協議会での意見の整理

分類項目	260630第1回検討協議会	260728第2回検討協議会		
		課題1	課題2	課題3
1班	・通学時間や通学負担など、通学に関する意見が最も多く挙げられた。 ・郊外の学校に通っていた経験がある委員が市街地の委員と話す中で、地域の方々も通学に強く関心を持っていることが分かった。 ・統合で通学距離が延びることによる低学年の負担、スクールバスの整備、実際の運行ルート・所要時間を考慮する必要がある。 ・郊外地域によっては、市内の小学校より小清水町の小学校の方が近い場合もあるため、隣接校が近い地域における柔軟な通学区域や、他市町村との連携も重要ではないか。 ・再編により学校が地域から離れた場所に配置された場合、小学生と地域住民との関わりが減少することへの不安が示された。 ・行事や総合学習で地域住民と交流し、地域全体で子どもを育てる視点が必要である。 ・多様な人間関係の中で社会性を育み、切磋琢磨できる環境として、1学級20～30人程度で複数学級が望ましいとの意見があった。 ・一方、少人数教育のきめ細かさ、一人ひとりに寄り添う教育、安心して相談できる環境も重視する必要がある。 ・縦と横のつながりを通じた成長、ICTなど教育設備・環境の充実、学校の歴史・伝統を継承する工夫が必要である。 ・老朽化への対応だけでなく数十年先を見据え、将来の人口減少による再々編を避けるため、施設整備と学校規模を一体で検討する必要がある。 ・学校給食の提供体制も大きな課題として挙げられた。児童生徒数の減少に伴う給食センターの見直し、調理員・栄養士の人材確保、持続可能な運営体制が必要である。	・地域住民の理解という点では、依然として不信感があることが重要な課題であり、細かな説明を積み重ねて理解を得ていく必要がある。 ・将来の学校数、税負担、運営費、職員数など、事業のボリュームを具体的にイメージできる説明が必要である。 ・「いつ、誰が決めたのか」という反発や不信が生じており、決められたものを示されるより「我々に決めさせてほしい」との意見があった。 ・会議の進行役と案の作成者を分け、中立的に進めたいとの意見があった。 ・今後、寄せられた意見を協議会にどのように反映するか検討する必要がある。 ・子どもに突然この話をしても理解することは難しいため、具体的にイメージできるアンケート調査を行った方がよい。 ・子どもには再編を直接問わず、「学校に求めること」を聞く方法がよいとの意見があった。 ・転校する子どもの気持ちや感受性に配慮する必要がある。 ・参加者が学校関係者に偏らないよう、公募委員や子育て世代の参加を増やす必要がある。	・学校規模は、おおむね1学年2学級が望ましい。 ・クラス替えや競争ができ、勝敗を通じて悔しさやうれしさを経験することも必要である。 ・1学級20人程度、または15人程度でも、2学級を確保できるような統合の在り方を検討できるとよい。 ・目安として20～30人程度で2学級との意見もあり、少人数教育の良さも踏まえた編成が必要である。 ・質の高い教育として、小学校・中学校・高校・大学をつなぐ一貫した連携教育を掲げてはどうかとの意見があった。 ・市内には東京農業大学があり、道外から来ている学生も多いため、交流を深めることで教育の質の向上が期待できる。 ・中学生が小学生を見守るような異年齢交流の関係を幼い頃から築くことで、地域にとっても安心して暮らせる環境につながるとの意見があった。 ・小・中・高・大学の連携により、都市部と変わらない教育機会を確保できるのではないかとの意見があった。 ・自然、農業、漁業を生かした体験学習や、伝統文化の継承も必要である。	・バスの乗車時間は一概に何分とは言いにくいが、都市部の私立学校では1時間以内を目安としている例もある。 ・能取地区から市街地まで卯原内やほかの地区を経由すると1時間を超えるため、能取や卯原内から直行する形が望ましい。 ・乗車時間は1時間以内、できれば30～40分以内が望ましい。 ・遠い子どもを優先し、寄り道を少なくする路線や、スクールバスの増車が必要である。 ・理想はドア・ツー・ドアであり、難しい場合でも、バスで学校の門まで行く方式が安全・防犯の面で望ましい。 ・防犯灯の整備、保護者送迎やタクシーの活用も意見として挙げられた。 ・必要な車両や運転手をどの程度確保できるかという懸念がある。 ・大型バスだけでなく、小型バス、マイクロバス、ワゴン車などを活用することで、児童生徒や保護者の負担を抑えられるのではないかとの意見があった。
2班	・学校再編を検討する前提として、市の在り方や将来像をどのように描くかが重要である。 ・再編だけでなく人口減少対策も必要であり、学校だけを「点」で考えず、教育の質、社会とのつながり、学校施設が担う防災機能などを含む「面」として総合的に検討する必要がある。 ・多様な集団の中で学び、社会性を育てる環境として、1学級20～30人程度で複数学級が望ましいとの意見があった。 ・小規模校には関係が深く安心感がある一方、新しい出会いや選択肢が限られるとの意見があり、規模の大きな学校を望む声もあった。 ・第1テーブルと同様に、通学が最も懸念されるとの意見があった。 ・新しい環境や人間関係への適応、放課後の居場所の確保も課題として挙げられた。 ・協議会には、今後就学する子どもを持つ保護者や幼稚園児など未就学児の保護者が参加することで、より当事者意識を持って議論できるのではないかとの意見があった。 ・保護者も一緒に学べる学校、透明性のある学校運営が必要である。 ・学校施設が担う防災拠点としての機能も含めて検討する必要がある。 ・西小学校の卒業生からは、統合に向けたスケジュール等についても十分に検討してほしいとの意見があった。 ・卒業生とのつながりや記念事業、学校文化をどう残すか、事前交流などの準備期間をどう確保するかも課題である。	・保護者アンケートは、保育所や幼稚園の保護者も対象とし、園単位や地域単位で実施するとよい。 ・地域向けアンケートでは、市民、自治会長、自治会などを対象にする必要がある。 ・子どもの意見把握では、文章を書くことのハードルを考慮し、Chromebook等を用いたA・Bなどの選択式の回答方法が答えやすい。 ・園、地域、施設単位で聞くことで本心をつかみやすいとの意見があった。 ・結果を踏まえ、地域別ワークショップ、町内会単位の説明会、定期的な地域懇談会などを行い、進捗状況や内容を知らせる必要がある。 ・統合が決定した場合は学校間交流を積極的に行う必要がある。 ・西小学校が先行して統合する場合は、その取組や統合後の校舎活用を今後のモデルケースにできるのではないかとの意見があった。 ・各課題を解決するためには情報を継続的に公開し、解決できていない事項も含めてフォローする必要がある。	・学校規模は1学年2～3学級程度とし、複数学級を確保することが望ましい。 ・1学級当たりの人数は、文部科学省が35人学級を示しているものの、20人前後、または20～25人程度がよいとの意見があった。 ・学校の在り方については、網走らしい学校を皆で考える必要がある。 ・農業、漁業、地産地消など、地域の未来につながる学習を取り入れてはどうかとの意見があった。 ・学校数は、特認校を含め、先に校数を定めず皆で検討する必要があるとの意見があった。 ・一方、学校配置の案として、小規模特認校2校と規模の大きい学校2校程度との意見もあった。 ・施設一体型の義務教育学校により教員数を確保する案が挙げられた。 ・小中一貫教育では、制服や修了式を工夫し、節目を設ける必要があるとの意見があった。	・バスの乗車時間は最大でも40分程度、できれば15～30分程度に収めたいとの意見があった。冬は1時間が限界との意見もあった。 ・スクールバスの路線設定が重要であり、路線を整理し、場合によってはJRとも連携して検討する必要がある。 ・乗車時間が1時間を超える場合は、途中の児童館等を中継地点とし、保護者の迎えを待てるようにする方法も考えられる。 ・距離ではなく時間を基準とし、地域で話し合う必要があるとの意見があった。 ・冬季の吹雪への懸念があるため、学校数と併せて学校の位置を工夫する必要がある。 ・雪や吹雪の際はオンライン授業に切り替えるとの意見があった。 ・今後、各課題を詳細に調査し、明らかになった課題を一つずつ解決する必要がある。 ・バス通学に付加価値を設け、車内Wi-Fi、オーディオブック、読み聞かせなどにより乗車時間を活用してはどうかとの意見があった。
3班	・意見は5つの論点に整理された。 ・1つ目は通学であり、最も多く意見が出た。安全・安心に通学できる時間や距離を重視し、特に小学生に負担の少ない通学環境を優先すべきとの意見があった。 ・2つ目は教育の質である。クラス替えができ、切磋琢磨できる規模が望ましい一方、小規模校にも良さがあるため、それぞれの利点を踏まえて検討する必要がある。 ・現行の35人学級は、現在の子どもたちの状況を踏まえると人数が多いのではないか、より少人数でクラス替えが可能となる規模を検討してはどうかとの意見があった。 ・3つ目は地域交流と防災である。地域住民が子どもの顔を知り、見守り、声を掛け合える関係を維持することが重要であり、学校は地域コミュニティの核でもある。 ・学校が災害時の避難場所となっている地域では、学校がなくなった場合の避難先を考慮する必要がある。 ・4つ目は学校間の円滑な接続である。急な統合により、子どもが不安を感じたり、登校をためらったりする可能性があり、教職員にも大きな負担が生じるため、子どもと教職員の双方に配慮した移行が重要である。 ・統合前の事前交流と準備期間を確保する必要がある。 ・5つ目は財源確保である。財源への不安があり、維持管理費を含む長期見通しや費用シミュレーションが示されると安心できるとの意見があった。	・資料や進捗状況を、学校、広報紙、ホームページ、LINE等でこまめに発信してほしい。 ・学校や地域ごとに中間報告会を設け、検討の途中経過を市民が把握できる機会が必要である。 ・子どもの意見を反映する方法として、1人1台端末を活用し、Chromebookでアンケートを実施してはどうかとの意見があった。 ・その前提として、学年に応じ、子どもが内容を十分に理解できる説明の機会が必要である。 ・児童会や生徒会など、子ども同士が意思決定や話合いを行うワークショップを設けてはどうかとの意見があった。 ・学校だけに任せず、協議会委員が学校等に出向き、ファシリテーターとして補助する方法も考えられる。 ・各学校で子どもたちが合意形成を行った上で、学校の代表者が集まり、網走市の学校の在り方を話し合う機会を設けてはどうかとの意見があった。	・クラス替えができるよう、最低2学級を確保できる規模が望ましい。 ・現行の35人学級は多く、1学級当たり20～25人程度がよいとの意見があった。 ・適切な学級人数について、実際に子どもたちを受け持つ教員の意見を聞きたいとの意見が多く出た。 ・特別な支援を必要とする子どもが増えているため、学級規模にかかわらず、特別支援学級の充実や支援員の増員など、網走市の支援体制を充実してほしいとの意見があった。 ・学校規模は、市街地の学校と郊外の学校を分けて考える必要がある。 ・農業や漁業など、地域の人や産業と関わる網走らしい学校づくりを進めてはどうかとの意見があった。 ・各学校が持つネットワークや資源を相互に生かすことが望ましい。	・バスの乗車時間は1時間以内という基準があるものの、長いとの意見が多く、特に低学年では30～40分程度が限度ではないかとの意見があった。 ・バスにGPSを搭載し、位置を把握できるようにする必要がある。 ・悪天候時には速やかにオンライン授業へ切り替える必要がある。 ・保護者による送迎、スクールバス、路線バスなど、通学方法を選択できることが望ましい。 ・距離要件を満たさない児童もスクールバスを利用できるとよいとの意見があった。 ・西小学校と中央小学校が統合する場合、西小学校を発着点とするバスを運行し、近隣の児童も集合して乗車できるようにする方法が挙げられた。 ・運転手とバス台数の確保が前提である。 ・同様の課題を抱える他市町村の事例を知りたいとの意見があった。

【参考資料3】1～3回協議会での意見の整理

分類項目	260630第1回検討協議会	260728第2回検討協議会		
		課題1	課題2	課題3
4班	・現在および将来の子どもたち、今後就学する世代、教職員など、多くの当事者の声を一層取り入れるべきとの意見が最も強く示された。 ・統合の必要性そのものへの疑問、説明不足や決定ありきへの不満、協議の進め方が性急ではないかとの意見があった。 ・遠距離・長時間通学、特に冬期間の通学への懸念が多く挙げられた。 ・低学年の児童が長距離をバスで通学できるのか、バスの台数や運転手を確保できるのか、バス停まで保護者が送る場合の負担をどうするのかとの意見があった。 ・保護者負担の軽減や公共交通の活用も検討する必要がある。 ・小規模校の児童が急に大規模な集団へ入ることによる心理的な負担、人間関係やいじめへの不安、特に途中学年への影響が示された。 ・小規模校には異学年交流などの価値があり、その良さを生かす選択肢も必要である。 ・統合前から学校間交流を行い、オンライン学習や合同学習も活用しながら、段階的に交流する必要がある。 ・学校は地域の中心的な存在であり、地域の結びつきに配慮するとともに、豊郷神楽などの伝統文化を継承する必要がある。 ・各地の義務教育学校や小中一貫校の事例にそのまま倣うのではなく、網走独自のモデルを検討してはどうかとの意見があった。 ・学区にとらわれず選ばれる学校づくりや、小中一貫教育の利点を明確にすることも必要である。	・情報の受信と発信を、よりきめ細かく双方向で行ってほしい。 ・情報発信では、メリットとデメリットを明確に伝える必要がある。 ・教育委員会や市が各学校や地域に出向いて説明し、直接意見を聴くほか、広報紙等を活用する方法も考えられる。 ・意見の受信にはLINEやメールも活用できるのではないかとの意見があった。 ・今回のような話合いを各地区で行うことで、保護者間の不安解消にもつながるとの意見があった。 ・保護者が継続的に意見交換できるワークショップを常設する案が挙げられた。 ・年代、立場、居住地域ごとに分けて意見を聴く方法も必要である。 ・現在通っている学校や居住地域について、子どもや保護者がどのように感じているか、現在の学校規模への満足度を把握する必要がある。 ・子どもの意見は端末で取りまとめ、年齢の低い子どもの話も聞く必要がある。 ・学校再編を地域の将来を考える学習の機会とし、子ども会議や生徒会サミット等につなげてはどうかとの意見があった。	・クラス替えができる規模が望ましいとの意見があった。 ・1学年2～3学級程度、1学級当たり30～35人程度がよいとの意見があった。 ・一方、小規模校で良好な人間関係を築き、高校で初めてクラス替えを経験したことも有意義だったという事例が紹介された。 ・小規模校と大規模校のいずれにもメリットとデメリットがあるとの意見があった。 ・学級人数について、実際に現場で働く教員の意見を聞く必要がある。 ・特別支援学級を充実する必要がある。 ・行事は人数が多い方が交流できるとの意見があった。	・バスの乗車時間については、30分、40分、1時間など様々な意見があり、児童生徒の年齢や個人差もあるため一概には決められないが、短い方が望ましい。 ・低学年の長時間乗車や、先生が同乗していないことへの不安が示された。 ・保護者の送迎負担を軽減するため、自家用車やタクシーで送迎する場合への金銭的な支援が必要ではないかとの意見があった。 ・「どこバス」は朝の利用が少ないと思われるため、通学に活用できないかとの意見があった。 ・GPSやAIを活用し、バスの位置をアプリと連動して確認できれば、保護者の安心につながるとの意見があった。 ・運転手、バス、費用の確保が課題である。 ・スクールバスの確保が難しい場合は、公共交通の充実や除雪を検討する必要がある。 ・子どもだけで長時間乗車することや、吹雪時の対応への懸念が示された。
5班	・児童生徒数が減少していることから、何らかの形で学校再編を進める必要があるとの認識が共有された。 ・将来の児童生徒数、教職員の確保、適正な学校規模、学校の立地・配置を検討する必要がある。 ・東部・西部地区の学校がなくなれば、地域の人口減少や農村地域の活力低下が進み、網走市の基幹産業である農業の衰退にもつながる可能性があるため、郊外校を残すべきとの意見があった。 ・学校の有無は移住にも関係するため、学校だけでなく、子育て、移住、交通政策と連携し、網走市全体のまちづくりと将来像の観点から検討する必要がある。 ・通学時間の増加や送迎負担への懸念があり、具体的な運行計画を先に示す必要がある。 ・スクールバスの運転手確保、運行ルート、バス台数を含めて考える必要がある。 ・再編のメリットだけでなく、バス、新設、校舎の解体、維持管理等の費用を数字で示す必要がある。 ・廃校施設の利活用も検討する必要がある。 ・児童生徒数の減少や施設の老朽化を、より良い教育環境をつくる機会として前向きに捉えることが重要である。 ・ハード面だけでなく、子どもの気持ちを最優先にし、不登校児童生徒への対応や保護者の納得形成など、ソフト面を重視する必要がある。 ・統合前から交流を行い、ICT・オンラインを活用して「一緒に学びたい」と思える環境をつくる必要がある。 ・各学校が培ってきた歴史、特色、文化、雰囲気などの目に見えにくい価値を大切にしながら継承し、新しい学校文化の創造につなげるべきとの意見があった。	・10年という長期を一度に考えるのではなく、一定の段階まで進めた後、10年後に改めて検討するという段階的な考え方もあってよい。 ・アンケートによる意見集約は必要だが、一部の人の声や画一的な意見だけでなく、多様な意見を集める必要がある。 ・気軽に話せるカフェのような場を設けてはどうかとの意見があった。 ・メリット、デメリット、費用を明示し、正確で平等な情報を出す必要がある。 ・オープンスクールの授業等で、児童生徒と保護者が一緒に考える機会を設けてはどうかとの意見があった。 ・子ども会議など、子どもの生の声を聞く場が必要である。	・児童生徒数が多い学校には交流機会が多く、少ない学校にはきめ細かな対応ができるという利点があるため、どちらがよいとは一概に言えず、双方の利点を生かせるとよい。 ・人数だけでなく、教員の質や教育内容を重視する必要がある。 ・1学級当たりの人数は少人数が望ましいとの意見があった。 ・教科担任を確保し、免許外指導の課題に対応する必要がある。 ・学校がなくなることで人口流出が進む可能性があるため、小中一貫校や中高一貫校とすることで学校を残し、市外への流出を防ぐことも重要である。 ・中高一貫校としつつ、特進クラスを設置して給食を提供することで、優秀な子を網走に留めることが大切との意見があった。 ・農業、漁業、地域産業など、網走の特色を生かした学習を行うことが大切である。 ・特別支援教育を充実する必要がある。	・バスの乗車時間や運行便を検討する前提として、必要な車両台数や運転手を確保できるかという見通しを示してほしいとの意見があった。 ・車両と運転手の確保が可能であると分かれば具体的な検討を進められるが、現状では不安があり、議論を先に進めにくい。 ・費用増大の試算が示されていないとの意見があった。 ・乗車時間は30～40分程度が限界との意見があった。 ・放課後や部活動後の便を確保することが課題である。 ・特急バスなど既存交通との連携を検討する必要がある。
追加シート		・乳幼児・幼児のいる家庭がどう考えるかを特に知りたい ・各家庭で話し合う場を持てるよう文書で協力を呼びかけ ・意見を聴く会の定期継続、すぐーるや封書で情報発信 ・在学中・子育て後・将来関わる層で意見は変わってくる ・委員の立ち位置や考えを明確にした上でグループ分けを ・意見を聞きすぎると前に進まなくなる懸念もある	・トラブル防止のため2クラス以上はあってほしい ・1学年2～4クラス、1クラス20～30人と柔軟に設定を ・安定した財源と教職員の充実した人員配置が最優先 ・2035年推計でも1学年70人程度で複数学級は維持できる ・子どもが減少する今、なるようになるしかない ・初期・運営費用を現状推移の場合と比較して示してほしい	・1時間以上は負担。既存校を残し出前授業での対応は可能か ・吹雪など悪天時は登校判断をせずリモート学習で出席扱いに ・スクールバスに添乗員を1台1名配置し安全対策 ・運転手の人手不足で民間委託も容易ではない ・二種免許を持たない運転手や高齢化による事故の懸念 ・通学が解決すれば再編問題の6割が解決。市の試算提示を

【参考資料3】1～3回協議会での意見の整理

	260929第3回検討協議会	
分類 項目	課題4	課題5
1 班	・財政、施設、将来人口を踏まえた実現可能性 ・少子化した時の網走市を如何に具体的にシミュレートできるかが肝要であり、想像できないと議論ができない。 ・おそらく人口が減っていくという見通しでこのように学校を減らしますよと言った状態からさらに減った時にはどうするのか。また、あらかじめ目安としてこの程度減ったらこうしましょうという何か基準のようなものをつけておいた方がいいのではないか。 ・スクールバスなど通学支援とかどうするのかと書いてあるが、スクールバスの1席ずつにタブレットを用意してもらい、朝の会をその場で行うことも考えられる。 ⇒時間の効率化 ・スクールバス内でのタブレット使用に関しては、今一度通学路が通信圏内かを確認する必要がある。 ・既存施設を活用するのが良いと思うが、何をするにもお金がかかる。壊すのにもお金がかかるし、新しいものを建てるのも簡単に言うが、それもお金がかかる。使えるものは残して活用しないと多くのお金がかかり、財政的に苦しいと思われるため、しっかり残さないとやっていけなくなってしまうのではないかと思う。 ・バスによる送迎を行うという話があるが、夏季の暑い時期や冬季の待合所の話が全く出ていない。その拠点のところに子どもが待てる場所を用意してやらないとまずい。財政負担が増えるとは思うが、そういうことも考えておかないといけない。ただバスがあればいいとか、運転手がいればいいという話ではなくて、それ以前の話ではないかと感じた。 ・どこか1箇所に集めるのか、家の前まで迎えに行けるのかどうかという話は出てきていない。西小学校がなくなって中央小学校に統合するとなれば、集まることはできると思うが、集まった時の待機施設がない。 ・集会所の駐車場があるが、3人か5人程度しか入ることができないため、しっかりとしたものを用意する必要がある。 ⇒天気が悪い時は、保護者が車で待っている状況である。 ・望ましい規模については、当事者である小学生たちは困っていない。よく逃げ場がないとか言われるがなんとかなっている。 ・両親が働く世帯ではすぐに家に帰っても対応できない親御さんもいるだろうし、市街地の子供じゃない場合は周りに友達がいなかったり、塾など習い事も行けなくなる観点から、各児童の下校時間が一定でないことからバスの運用も難しくなることが想像に難くない。 ・たとえば浦士別や豊里あたりの東網走地区や、卯原内・嘉多山などの西網走地区だと広範囲に児童が点在し、帰宅時間もまちまちになるとバスのダイヤ編成は大変厳しくなる。放課後すぐに帰宅したい児童、課外活動や両親の共働きで遅めに帰宅したい児童と2グループに分けた場合、学校または学校周辺の習い事での活動拠点として放課後の学校の運用も併せて考える必要がある。	・廃校後の利用をするのであれば、宿泊施設としての活用検討が良い。網走マラソンや流氷観光の時期にはホテルが足りていなくて大変であり、結果的に某ホテルは普段15,000円のツインが50,000円になっている現状である。 ・少年団利用やラグビー、サッカーの合宿施設として使えるようなものも良い。 ・田舎の方ではキャンプ場にしている施設もある。水洗施設もあるし、トイレもある。また、グラウンドが平らだから水はけも良いため、意外とそのまま放置していても問題ないかもしれない。 ⇒キャンプはやりやすいと思う。学校周りは何もないから夜中に寝そべって空を見ると流れ星が見られる。これを観光資源として扱うような利用を考えれば、もしかしたら何か良い方法に転換していけるのかなと思う。 ⇒広尾町のキャンプ場は管理人を近くの酪農をやっている方が担っていて、ここに泊まりますと管理人に伝えると次の日に生の牛乳を持ってきてくれる。しかし、このご時世では、管理の部分において生じる責任が昔のいい時代と違うため、何とも言えない。 ・明確な利用目的がないのであれば廃校利用は原則しないという方針が良いと思う。維持するためには経費がかかるし、物置にしかならないことも考えられる。 ・小規模校が大きいところに吸収されることにより、今ある良い伝統文化が消えないかが心配。そのような文化は全部引き継いだ方が良い。 ⇒豊郷神楽のようにうまく継承されていければ良い。 ・実際に住んでいる地域では子ども相撲として小学生同士が相撲をとる文化があるが、他の市街地の小学校にもそのようなものはあるのか。 ⇒何かしらはあると思う。例えば、網走小学校の運動会にも競輪の名物競技がある。 ・子どもたちがミニバスを習っているが、この時期は体育館の奪い合いになるため、体育館だけ残してほしいというのが正直な想い。キャンプの話を聞くとそれも良いと思うが、管理人の話になるとかなり難しい。 ⇒原則使わない方針のうえ、ホテルなどとして活用するならば民間に委託して、なんとかうまくやってくれないかなという想いがある。それと一緒にキャンプ場も運営してくれれば一番良い。 ・学校開放の方式で鍵を預けて、その人が責任を持つというのであれば負担はかからないと思う。今までは町内会でやっていたが、今は例えばコンビニに鍵を置くボックスを作って、そこで管理をするという方法もある。そんな大したお金が必要なわけではないから可能であると思う。 ・体育館があると宿泊ができる。現状、宿泊施設が不足している時期があるため、このような施設をその時は無料開放してもらって、そこにみんなで寝袋を持参して雑魚寝をする。使っていなかったら劣化してしまうため、結構寒いけど当然大人ばかりだろうし、お酒も飲んでもいいけど汚さないように活用していく方法もありかもしれない。 ・物置のようになり、使用しないでカビ臭くなるよりはある程度活用する方が良いと思う。 ・都市計画について、学校を都市の核の一つと位置付け、文化拠点・防災拠点・交通拠点を形成していく必要がある。将来のコンパクトシティー化に向けた青写真も必要になると思われるので、総合的な都市計画の刷新も必要ではないか。 ・また、当期の猛吹雪や異常気象、災害時に帰宅困難児童が緊急的に学校に泊められる多目的ルームも必要と思われる。 ・閉校した各学校は、地域の文化、スポーツ、高齢者、地域防災の拠点としてそれぞれの地域の実情に合った施設として残す。
2 班	・郊外と市街地の選択肢 ・郊外や市街地の小学生と中学生に学校教育などのアンケートを行って、各学校の現在行っている役割や機能を知りたい。 ・職員体制の確保 ・学校配置などのある程度の概要が決まらないと議論が進まない。 ・必要な費用、学校統合パターン、統合した場合の子どもの人数などの情報が出てこない。 ・網走全体を考えているのか、そこの地域のみを考えているのかは人によって異なり、温度差があるような気がする。 ・学校の配置について、小学校を何校に減らして、中学校を何校にして、義務教育学校を何校にするなどの方向性を示してほしいという想いが投げられている感じがずっとしている。 ・今回の資料で出てきたが、改修しなければならない学校が多く出てくる。これらへの対処としてどこにお金をかければいいかなど財源について考えなければいけないため、最終的に1つや将来的な人口も大雑把に考えて2つ程度にするなどの結果になってしまう。こちらとしては2クラス以上が良いという話だが、去年生まれた子が140人しかいないため、1クラス35人学級としたら2つに割っても3クラスずつにしかならなく、じゃあどこに建てるか、どこが良いかとかの議論となる。 ・税金として負担するのは市民。 ・最終的に学校の体制が決まった際に、お金がないため実現できないとなったら何のためにやったのかという話になる。 ・人口は増える要素もないため、おそらく議論しても縮小の方向に向かう。 ・美幌町は小学校3校、中学校2校を全部1校に集約をすると決めている。 ⇒その他の自治体の経緯を参考として、他の自治体のことも知りたい。 ・人口減少や交通手段などについて、全部考える側に投げられると厳しい。 ・現実的に今までには郊外の方でも統廃合されたり、なくなっている学校だったりがあることを踏まえると、市街地でも落としどころはどこかで決めなければいけない。 ⇒ここでの議論は理想として、その後にお金の話が出てくるため、その時に前段階で話した理想が変化し、落としどころが見えてくるのかなと思う。 ・新しい学校の場合には、既存の施設利用よりは作った方が良い。中学校に小学校がくっついた施設があるが、不具合というか、使いづらい面がある。特に市街地であれば、中学校の階段の高さと小学校の階段の高さが異なり、トイレや水飲み場の高さも違う。 ・何が一番理想的な学校が作れるのかという議論として、バスの走行時間や経路は市で行うしか方法はない。さまざまな意見を出して、どうまとめるかは事務局次第であるが、機能を集約する以上は新しい校舎を作った方が、小中一貫の教育を推進する上でも良いのと、通学時間を考えて市街地と郊外の拠点を組み合わせる方法が良いという考えである。 ・永久には使えないが、まだ新しい施設を活用していくことはできると思う。ここは小中学校で残して良いと思っている。 ・学校を選択式にして、どうしても郊外が良ければ親が責任持って送ってあげるしかない。 ・授業を見ていたら小さいなら小さいなりのメリットもあると感じる。 ・全部選択制にしてしまうと校区がなくなってしまう。そのため、そういう人は親が責任持って送迎しないと全部対応していたら終わらない。 ・市街地と郊外の学校は残した方が良く、東西に一個ずつ小規模校を置いて、市街地に2校という形郊外の人は選択できる感じが良いと思う。 ・送迎バスに乗る時間を考えると、僻地から市街地への移動には住む場所によってはかなりの負担になると思う。	・子どもの居場所が欲しい。 ・どの場所でも防災を大切にしたい。 ・学校関連の地域活動とは ⇒地域のお祭りを学校と一緒に統合して行うことや小学校と保育所と一緒に運動会やることとかそのような感じ。 ⇒網走でもあるか。 ⇒あんまり行ってないと思う。例えばこの地域だと、あのサンゴ草祭りに第五中学校の音楽部が演奏で参加するなどは行われている。 ・多い人数に戸惑いを感じる子もいると思うため、その子の場所を作りたい。 ⇒子どもによっては少人数の方が良いという子もいるし、大人数だとちょっと入るのが怖いっていう子もいる。 ⇒子どもに「もし他の学校と一緒になったらどう？」と聞いてみたら、「嫌だ」という答えが返ってきた。今までよりお友達増えるけど何が嫌なのか聞くと「今までの子たちもいるから良い。新しくさまざまな人が入ってきて問題が大きくなったり、トラブルとかが増えたりすることを考えると嫌だから、今のままで良い。」みたいなことを言っていた。 ・部活が市内に集まるため、郊外の人たちの部活のことを考えると選べないといけないと思う。 ⇒今、部活としてクラブチームは野球、サッカー、バスケがあり、音楽は吹奏楽として地域バンドがあり、剣道もソフトテニスもそれぞれ地域の方が考えて作ろうとしている。現在、各学校にある部活動のほとんどが地域クラブのような形で残るのではないかという感じである。 ・文化や伝統の継承について、地域ごとの内容を教えてほしい。 ⇒統合されたとしたら、その継承はすごく難しいのだろうなと感じる。その地域にあるから今まで残ってきて、今までつながってきたのかなと思う。 ・地域性を考慮しても、現実的に考えても、特認校を西と東に其々1校づつ置くのが望ましいと感じる。

【参考資料3】1～3回協議会での意見の整理

	260929第3回検討協議会	
分類項目	課題4	課題5
3班	・財政面 ・他の学校の事情がしっかり分かっていなく、情報が足りていない状態なのに廃校存続に関する議論を行うのは、その街の人に言いづらい。 ・統合や児童クラブなどの情報も全然知らない。実際どうなっているのか、どこに人が行っているのかとかもわからない。お金についてはいくらかかるかという記載はあるが、市としていくら出せるまでの記載はないため、全部絵に描いた餅で終わってしまう。 ⇒理想は新しい校舎を4,5校建てて、そこに集約するような形にするのが多分ベストだと思う。でもそれは現実的に不可能だよねという判断が今できないと思う。そのため、市がいくら出せるかについては早期に出してほしい。 ⇒新しく建てるのか既存の学校を使うのかという考えも関係してくる。 ・前回の話や校外の話を聞き、この先の入学者数も別に減るわけではなく、通学時間などの面を考えた時に校外校はそのまま今は残して良いのではと感じている。 ⇒実際、ここの校舎は新しいため、別に今改修するわけでもないなら、使えるものは使った方が良い。本当に人が少なくなりそうとか、校舎が老朽化してきた時に、また考えたら良いのではと感じる。 ⇒子どもの数は全体的には減っている。 ・小中一貫を進めた上で、市街地の学校集約を行う方が良いのではないかと思っており、おそらくその拠点になると考えられる学校がもう老朽化しているから新たに新築する必要がでてくると感じている。 ・市内の方は集約して新しい校舎にするとか、今候補地があるかどうかという内容が全然出てこない。 ・本当にその場所に新築するのかという議論も絶対的に必要である。既存の学校を壊してそこに建てますとなるなら、校舎がない間の子どもたちはどうするのかという単純な疑問も生まれる。 ・交通鉄道とかバスとかの事業者の対応が可能かどうか分からない。 ⇒協議中みたいな感じでは書いてあった。 ・市内の児童館の中には古い施設もあるが、新しく費用をかけて綺麗にするより、コミセンとかを利用して児童館の集約などの条件整備をしていくのが良いと感じる。	・防災機能 ・それぞれの学校が地域とどのような関わりをしているのかを知りたい。自分の子どもが通っている学校であれば分かるが、他の学校がどういう関わりをしているのかが全然見えないため、何を残していいかが分からない。 ・廃校活用は場所によって活用の仕方が変わると思うため、どこの学校が統合するかなどが決まらないと判断できない。 ⇒廃校活用としては、合宿ベース、サードプレイス使える場所、学図書館、民間オフィス、児童館、チャレンジできる場所などが良い。しかし、それらをやるにも管理者が必要なため、回していくことの方が難しいと考えられる。 ・小中一貫校の児童館について、今までは夏休み・冬休み中に児童館に行ってもらっていたが、学校が統合した場合にその今までの児童館がなくなってしまうと共働きができなくなってしまう可能性が非常に高い。そのため、そこの児童館は残してもらうとか、何か対策をしないと地域としての役割を果たせなくなって、もう共働きができない、今まで普通の正社員だったのがパートにならなければいけないという事態は絶対出てくると思う。 ・校外校があるということは子育て世代の人も住んでいたり、地域の行事も存在していたりとこういう学校が地域にあるからこそここに人がいると思うため、なくなってしまうと地域が衰退する可能性があると感じる。 ⇒地域にとって不可欠ということ ・廃校後の管理先の選定として、市なのか民間委託とするのかなどの見本を作っておかないと揉める原因にもなるため、議題とする必要があると思う。 ・お母さんたちと話して案を考えていると「夜泣きする赤ちゃんを連れてお母さんがいつでも来られるスペースが欲しい。」とかを言っているお母さんもいた。根室町で出その様なことを行っているらしく、そのようなスペースに結構お母さんたちが来て、夜泣きする子連れてくると言っていた。
4班	・財政、施設、将来人口 ・既存施設は十分に活用していかないといけない。統合されて学校ではなくなったとしても、一回活用していく必要があるなと感じる。 ・学校の現場の意見やビジョンが聞きたい。どのようなものが良いかというか実際の教育者の方々などの意見を聞いた上で何が望ましいのかという意見がないため、結局我々大人の事情でしか物言いできない。 ・学校の意見や教員によって割れてしまう。子どもが少ない方が十分に見てあげられるというのもあるし、人がいた方が多様な意見が聞けるという一面もある。例えば体育の中でできないスポーツが出てくる。我々は見た目でしか判断できないし、学習発表会しか行かないため、具体的な不便さのようなメリットデメリットを聞いた上で進めていく必要がある。西小ではグラウンドが水浸しになってなかなか水が引かないため、土の入れ替えが必要だからもうなくしていいという風にもなる。 ・将来の子どもたちが学校に行けなくならないための議論であり、私たちが学校に通うわけではないし、予算も多くあるわけではないため、できることを進めていくしかない。 ・スクールバスについて、校外と市街地では時間が大きく変わってくると思う。そうなると家に帰って勉強する時間やスポーツの部活をする時間に不平等が出てしまう。 ⇒不平等は出てくると思うため、実際はスクールバスの用意もできないだろうし、できるかどうかは別としても、時間的な不平等が出るなとは思っている。 ・郊外に住んでいる身としては交通手段が一番重要。 ・バスは責任持って確保しますという前提がなく、明確なビジョンが見えてこない。 ・義務教育学校にするのは補助金がないとできないと思う。そのため、補助金をもらう条件づくりのための協議なのかなと感じている。	・特色ある教育プログラムの実施として、地域それぞれの特色を生かして継承しながら地域と繋がるような教育をするのは大事であると思う。 ・防災の避難所や伝統芸能といった文化的なものなどの地域の中心的な役割を残していくかもしれない。その他にも高齢者が利用できるような施設として福祉施設としても利用していった方が良い。 ・地域が孤立し、つながりがなくなることが今後の大きな課題になってくると思うため、孤立しないような地域がつながるイベントだったり、教育だったりというものが大事。 ・伝統の話として白鳥台小学校では学校の太鼓を残しており、獅子舞もやり、太鼓も活用することで伝統を残している。 ⇒4地域の統合をしたが、人数少なくなってきてしまい、獅子舞と太鼓を併せようと子どもたちで話し合いをしたが、伝統文化ってなるとわけがわ分からなくなっていた。担い手がいなくなり、教えてくれる人も高齢化で太鼓を教えられないため、その伝統を残すのも大切だが、その後どうしていくかを考えることも必要。 ⇒元々あったものはなくなるため、形も変わっていくと思う。やらないといけないものではないが、それを残す責任もある。 ⇒でも地域力が弱まっていくことも考えられるため、しっかり維持していく必要がある。地域力の強化と維持が大切。 ⇒伝統文化に関しては学校だけだと解決は難しいと思う。 ・地域自体が縮小しており、いま学校では保育園の運動会を一緒に行っている。保育園の人数は少ないため単独で行えばすぐ終わるが、小学校と一緒になると多くの人に見てもらえる。 ・郊外には子どもたちが放課後とか休日に集える場としての機能として児童館的なものがない。
5班	・郊外の学校は存続。市街地は小学生の通学負担に配慮して小学校を残し、中学校を統合。小学校中学校は分けるべき。 ・学校の場所が決まらないと、いろんなものが決まらないような感じがする。 ・小学生の心の負担を増やさないように登校場所は変えず、同じメンバーでバスに乗るとバスの負担が少なくて済む。事故リスクなどの負担も変わらなくて済む。 ・早退や外出自粛した際の対応があるため、郊外はやはりそのまま残してもらいたい。 ・市街地に集約すると、郊外の人がすごい負担。睡眠時間と勉強時間が削られる。 ・市街地は集約して郊外はそのままにした上で考える。 ・呼人の小規模特認校に遠くても行く子どもがいるが、今は支援級を希望する方などは行きたくても断られることもあるため、郊外校で対応するのも良い。 ・小規模を希望している方は多いが、バスがないなど通う手段がないことや児童館がないため、諦める方がいるようだ。友達同士で歩いて登校したい子もいる。 ・選び方次第ではあるが、小さい規模の方が頑張れる子ども結構いる。 ・小規模であれば、先生が細かく指導できる。運動会では、種目ごとに絶対誰かがその種目のリーダーになるため、リーダーの経験ができるが、大人数だとその経験ができない。 ・水産関係や農業の方などを考えると、工業高校にして農業学科みたいな学校はプラスになるなども考えられ、中学校から専門にやっていくのは面白いと思うが、公立では難しい。 ・農業的な学習の仕方の中身の充実などは結構良いと思う。工場見学のような地域に根差した教育みたいなものも学校によっては既に行われている。 ・郊外を大事にしたい。 ・網走市の先生が学校をかけ持って授業をするなど、全部の学校がつながっていたら、どこに登校しても子どもたちは同じであるため、良いと感じる。 ・サンゴ草保育園と小学校は、地域に根差した交流や先生方の勉強会なども行っている。 ・将来、子どもが減少すれば考えないといけないと思うが、まだ学校は新しい。その時の保護者がもう市街地へ集約してほしいとなれば良いと思う。 ・中一ギャップと言うが、6年生で一度小学校のリーダー的経験した後、リセットして中学校から一番後輩になるという節目の経験も大事だと思うため、一貫校はデメリットであると考える。小学校は残して、中学校はまとめていく選択肢も考えられるし、北海道の地方の自治体見るとそのようなまとめ方をしている自治体の方が多いのではないか。 ・小中一貫校では働いたことがないが、小中を一緒にして小学校の先生が中学校の授業をするつながりがあると良く、小学校卒業後の成長を見守るつながりも大切。 ・先生方の人数が少ないことからいろんなことができないため、小中一貫にすることでバリエーションが増えるようなメリットがあると思う。 ・学校の統廃合は中学生であれば理解できるかもしれないが、これを一つひとつ段階的に小学校2年生と3年生が同じように行っていくことが難しいのかなと感じる。 ⇒そのため、郊外は郊外で打開させていくイメージであった。 ・郊外は郊外で考えるのか、市街地に集約するのかなど学校の配置などが具体的に決まってからでないと議論が進んでいかない。 ・小中一貫校に対する情報が少ないため、よく分からない。 ・統合後の廃校は、企業誘致を進め地域における生産拠点とする（ふるさと納税返礼品工場など）が、体育館等は住民開放し、地域の人が集まれる拠点として利活用する。 ・廃校の一部または地域の住民センターにサテライト教室の機能を持たせ、荒天時（特に冬期間）の対面授業の拠点とする。 ・統合後の廃校利活用は、教育部局だけでなく市長部長も含めて、今後の公共施設のあり方をオール網走で検討する必要がある。	・地域の方との交流として、地域の祭りなどのイベントへの参加、地域のゴミ拾いなどの事前活動は残してもらいたい。 ・体育館を夜間開放して寝るなど、学校は地域の避難所的な役割もあるため、そのような部分をそのまま残していければ良い。 ・既存の施設を取り壊してまた新たに建てるとお金がかかるため、小規模改修などの方が良い。 ・比較的プールが改修されているようなイメージがあるため、再利用などうまく活用していければ良いと感じる。 ・統合してしまった際に統合される側の生徒は、そこの校舎に通い慣れているため、そこに集まって、同じメンバーでバスにて移動できる形として登校時間まで変える必要はないと思う。 ・それができると、少しでも拠り所になったり、帰りも元の校舎までバスが出てくれれば、そこから歩いて帰ってきたりするのも可能だと思う。 ⇒そこが児童館みたいになっていれば、親も迎えに行きやすい。 ⇒西小学校の児童館はとても古いと思うが、西小学校が統合された場合、西小学校を児童館として利用できれば良いと感じる。 ・郊外に学校を残すとかではなく、郊外と市街地を分けて考える。 ・統合後の廃校に企業誘致をすることで、一定規模の居住人口の拡大につながることが期待できる ・市街地の存続校（新設校）にとっても、郡部の統廃合校にとっても、不登校児の対応は大きな問題である。登校できない児童生徒のためにもオンライン授業の拡充は必要であり、学校統廃合と合わせて、これまでよりも具体的な取り組みをすることで、大きな意味を持つと思われる。

【参考資料3】1～3回協議会での意見の整理

	260929第3回検討協議会
分類 項目	課題6
1 班	・例えば、掃除の際にグループを作って今日はどこを掃除するなど細かい決まり事を作っている小学校もある。そういう決まりを明日からやめましょうと言われても子どもがびっくりしてしまうと思う。そのため、みんなでそういう意見交換をしても良いのかなと思う。 ・子どもの学校生活への配慮 ・環境の変化に対応していくための対策 ・子どもたちの心をどう掴んでいくかというのはすごく大事なことだと思っており、突然明日から違う学校に行くことになる時に、子どもたちがどんな反応を示すかを気にする必要がある。ショックで学校に行かないなどが起きなければ良いが。 ・自分が小学生の頃に統合した際の話として、その時は嫌だなと思っており、大きい学校には行きたくないと思っていたが、元の古い学校ではなくてピカピカの校舎ですごく良いと思った記憶がある。おそらく子どもたちは思っているよりも強いため、大丈夫だと思ってしまう部分もある。 ⇒小学生の頃に転校したことがあるが、最初は不安だった。しかし、実際に通ってみたらなんてことなかった経験がある。 ・児童の個性に応じた対応として、例えば在宅とかオンラインなどができるシステムが用意されていると良い。 ・コロナ禍を経験している子はリモート授業なんて全然問題ない。 ⇒ICTへの対応は十分にできているものなのか。 ⇒大学ではオンライン受講が普通になってきており、心病んじゃって来られない時はオンラインで受講できるシステムなども用意されている。 ⇒現役の小学生の親をやっていると分かるが、不登校や心に関するさまざまなカウンセリングの案内が毎週のように届く。そのため、困っている子に対するセーフティーネットというのは、既に制度としてある程度準備されているという気がしている。 ・PTAは任意の団体だが、多くの方が入ってくれる。 ⇒PTAには入るのが当たり前みたいな風潮があったが、そうではない小学校もある。お金は払うけれども会には入らず活動にも参加しないというポリシーがある人もいるため、難しい。 ・統合は年度の途中ではなく、学年が始まる3月末から4月始めに調整する。 ・事前交流は統合する年度が決まったら、少しづつ手法を吟味しながら初めて行く。 ・合同の遠足や修学旅行、課外授業から始めて、合同運動会などへと昇華していく。 ・既にオンラインの授業もできるようになっているので、事前学習にも応用し、統合後のリモート学習の仕組み作りと併せてリハーサルができるとよい。 ・スクールカウンセラーの増員も必要になる。
2 班	・西小学校、中央小学校全学年の実施とは何か。 ⇒西小では、年度初めから全学年との交流創りをスタートしていると聞いており、将来的に回数を増やすと言っていたため、内容が良ければ他の学校の参考にもなるのではないか。 ・子どもたちの関わりは残したい。 ・事前交流も大事だと思うが、少しずつ進めることが大事。 ・統合の前には事前交流や丁寧な説明等、子供達の不安を和らげる事に注力して欲しい。
3 班	・事前交流と合同学習 ⇒合同学習やレクリエーションなどの座学ではない名前を覚えられるゲームのような体験の方が良いと思う。 ・カウンセラーの先生が小学校一人しかいない。 ⇒複数校兼務している状況。 ⇒1ヶ月に2日程度しか来ないため、回数をもっと増やして欲しい。 ・統合は途中からではなく、1年生から順次やっていく。交流ではなくて統合した時に入学のタイミングであれ違和感がないと思う。なくなってしまう学校に関しては、新1年生は入ってこないが、まとめてドンではなくて順次やっていく方が生徒たち自身もストレスなくできるのではないかと思う。 ・親の相談先の確保として、子育てサークルや民生委員などにも相談できる環境が良い。 ・親と地域への説明 ・子ども一人ひとりに合わせた学び、居場所の確保というところで特別支援教育の専門的人材を確保してほしい。それに合わせて心理士の先生や作業療法士、言語療法士などの先生たちも統合すると市内の学校に置いてくれる。またほかの小学校で行っているか分からないが、算数の少人数学習は絶対続けてほしい。 ⇒特別支援の先生はどこの学校も取り合いという話がある。 ・登校の支援として親が子育てを学ぶ機会も作れたら良い。 ・統廃合した時にどこの学校でも行ける方策として校外にも行けるし、校外からこっちに行きたかったら行ってもいいというような、選択ができる環境ができたら良い。
4 班	・新しい環境への保護者に向けた支援の準備 ・子どもたちの状況に応じた学びや居場所の確保 ・統合するとさまざまな人がいるため、一番支援が必要な子どもが安心して学べるような環境だったり、学校だったりを作ることができれば、みんなにとってプラスなのかなと思う。 ⇒特別支援の充実 ・網走ではいじめが多いと感じる。 ・教員数を増やす。学校の規模が大きくても小さくても多い方が良い。 ⇒中学校では免許のない科目を教えている先生もいる。 ・統合した際の問題としては、初めの1年生 2年生の子が6年生になるまでの間だろうから最初が肝心である。 ・例えば南小学校と東小学校と白鳥台小学校が一緒になる場合、東小学校と白鳥台小学校の子たちは転校生となるため、そこのケアが必要。これが新しい施設であればみんな同じ条件で入れるが、南小学校の方に加わるというのは転校生となるため、最初の数年のケアが必要。 ⇒子ども同士だとすぐ仲良くなると思う。しかし、十分なケアは必要であり、教員間の情報共有はすごく大事になる。 ・他の小学校に通っていても、白鳥台小学校に行きたいというような意見を通せる選択肢があると良い。 ⇒学校を選べるとなった時にはバランスがどうなるのかが気になる。小学校は工区で決まっているため、学校ごとのPR合戦になるとどのようになるのかも気になる。 ⇒小学校ごとの特色として英語に特化した学校や運動系の学校などがあると良い。 ⇒東小学校の子どもたちは人数が少ないため、chrome bookの技術がすごく、1年生でもさらさらキーボードを操作している様子も見られるため、そういうことを考えるとそっちに行かせたいという親も多分いるのかなと思う。 ⇒別に今から選べるようにして人数が少ないところは自動的に廃校となっていき、残ったところに学校があるのも平等な意見となり、良いかもしれない。そうなると必然的に郊外はなくなっていく。 ⇒ということは郊外の親の負担が増える。 ・中学校に上がるタイミングで西小学校と中央小学校がどちらも1学年しかない年があったが、2クラスになると思っていたら40人1クラスになってしまった。しかし、中央小学校の子たちは西小学校の子たちと仲良くなるなどのプラスの要素がすごく大きかったため、今回も良い意味で化学反応が起きればいいと思う。 ⇒中学校というタイミングが良いのであって、心ができあがっていない小学校のタイミングとなると難しい。
5 班	・事前交流でスポーツクラブの人数が少ないところ同士でチームを組んで練習したり、大会に行ったりというのは中学生もやっていると思うが、そういう交流での出会いもあるのかなと思う。 ・中学校は数年後に部活がなくなるため、スポーツ交流はどうかと感じる。 ・親が送迎できないこともあるため、郊外としては部活がなくなると大変。 ・スクールカウンセラーの子どもへの配慮だけでなく、親が公の場で聞けない質問などを相談できる体制が欲しい。 ・統廃合による大人目線のネガティブな意見が多いのは仕方ない部分はあるが、そこに固執すると議論が前に進まない。 ・これから学校に子どもを通わせる父母に、丁寧に今後の見通しを説明し合意形成を図ることが大切になる。その為にも市教委は、子どもにとって最適な教育環境を、わかりやすく示すことが喫緊の課題と思われる。